



地区広報

おやまだ

第 9 号
平成元年 3 月 25 日



おもな内容

- ② 南部工業団地の造成
- ③ お釈迦さんの由来記
- ④ 天領だった六名町
- ⑤ 生まれ変わった内山町
- ⑥ 楽しい町民運動会
- ⑦ 相手の立場になって
- ⑧ この人尋ねて

わが町は わたしたちの手で

私たちの住むまち、そこには自然から豊かな恵みを受けています。

川あり、道あり、緑あり、こうした環境の中で生まれ育ち、次の世代へと伝えていかなければなりません。それだけに自分たちのまちを自分たちの手で守っていくことは大切なことです。

地域社会づくりは、そこに住む一人、ひとりがお互いに協力しあって、いろいろな活動を自主的に行うことから始まるものです。

写真は、鹿間町内での清掃作業

南部工業団地

造成地につち音高く

鈴鹿連峰を西に見て、快適にミルク道路を走り、山田、六名地内に入ると、車窓に鉄筋、鉄骨の建物が目に写ってくる。

これらの建物は、日々大きく、細長くなり、その数をどんどん増してゆき、広い敷地を形づくってゆきます。ここに新工場の建設が着々

と進行していることがよくわかり、どんな企業がこの小山田の地につち、どんな会社や工場を完成させてゆくのか、興味もたれます。

この造成地は、南部工業団地の敷地で現在、食品素材の総合メーカー・太陽化学(株)が十二万七千㎡の敷地に昭和六十三年九月から新工場の建設

に着手し、本年八月には第一期工事が完成(予定)することになっていきます。

この南部工業団地造成は、当地区が地域開発のため「工業団地」の導入

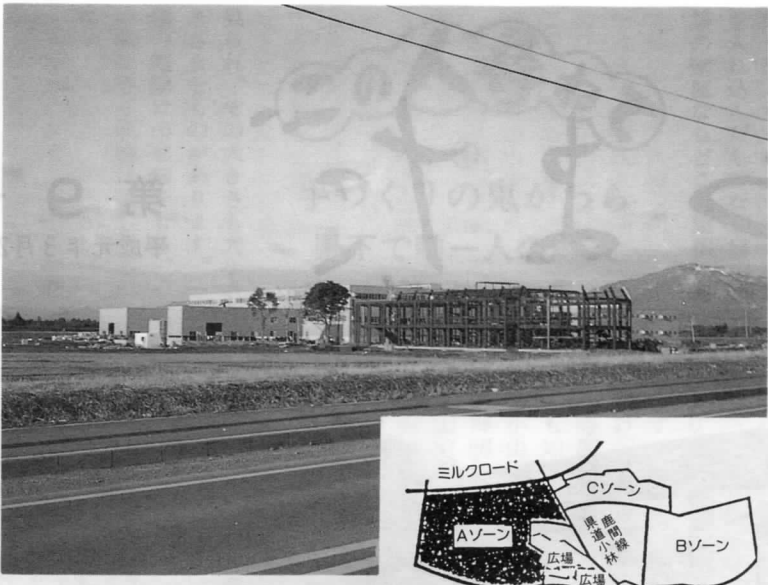
を図ることは、調和のとれた地域の発展と地区住民の生活の安定に役立つものと陳情、要望がなされたことに始まり、市においては、総合産業都市形成のために、内陸部開発を目指していたのでその一環として、小山田、内部両地区にまたがる土地に「工業団地」として計画されたのがこの造成地である。

この工業団地の規模は、小山田地区の旧三鈴中学校跡付近の山田、六名、鹿間町、内部地区は、北小松町地内の山林、畑地等約三十ヘクタールの工業用地の造成であった。また、誘致企業は内陸型の組立、加工、食品関連企業の誘致を図ろうとするものであった。

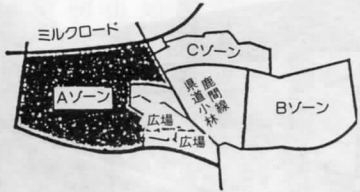
の近代重機を使用して工場の建設が一部地域で進められているが、この工業団地は、三つの区画(ブロック)に分けられ、A、B、C各ゾーンという区分で呼ばれている。



付設工事も同時に進むCゾーン



広い敷地に建設進むAゾーン



大型重機によって進む造成工事 Bゾーン

昭和五十九年八月に地区関係者、地主代表等により開発推進協議会が結成され、地域の発展にかかわる諸問題の調整をしつつ協力する体制がづくられてきた。

て昭和六十年用地買収に入り、昭和六十一年度からは、用地造成が開始され、完成した所から随時、新工場の建設を進めているのが現在の南部工業団地の経緯である。

現在、工業団地には、大型

いま建設中の企業は、Aゾーンの太陽化学(株)であり、進出するB、Cゾーンの企業は、次のとおりであります。

- Bゾーン**
- 日本スチレンペーパー(株)
- スチレンペーパーその他合成樹脂製品製造
- 愛工グループ
- ① (株)愛工社
- ② (株)三幸製作所
- ③ 宏和工業(株)
- 電装部品の組立等
- プレス板金加工等
- (株)サイトウ工研
- 各種産業用自動作業機械設
- 計製造

- Cゾーン**
- 日乃出ゴム工業(株)
- 自動車用ゴム部品製造
- 大洋産業(株)
- 鮮魚、冷凍魚、塩干魚その他加工品の製造販売

新しい「平成」の時代の始まりと共にこれからの企業の建設にますます拍車がかかり従来の小山田地域は大きく生まれ変わり、いよいよ活気に満ちた小山田を期待してやまない。

私たち小山田地区民はこの新しく生まれ変わりゆく将来に大いなる希望をもとうではありませんか。



東寺のお釈迦さん

伝承によれば、「昔、行基菩薩（668〜749）奈良の大仏建立に功績があり、また各地に橋をかけたり、灌漑用水を作ったりした

「室山の雪お坊さん」即ち室山の法蔵寺の御住職が「報恩講」に来られる頃には、必ず寒波に見舞われて雪が降るといふ諺（ことわざ）と並んで、有名なものに、「釈迦の荒れ」というのがあります。

「涅槃会」の厳修される三

社会事業家としても有名）がこの地にて一字の堂舎を建立し、自作の釈迦像を安置した。これが法源寺であり、釈迦像である」ということでもあります。

身売りされた鎌倉作

「お釈迦さん」の由来記

暁覚寺住職

中澤 見 恵

町寺
山東

月十四、十五日頃にも、また一大寒波が襲来し、しかしそれを境に、段々と暖かくなつて春めいてゆく、という意味です。

このように、私たちのご先祖が、生活の中にとけこませ受け継いで来た東寺の「お釈迦さん」について、その由来を記してみたいと思います。

この、「お釈迦さん」は、今は存在しない深光山法源寺というお寺の御本尊でした。

このお寺は、浄土宗鎮西派に所属し、京都の黒谷金戒光明寺の末寺でした。

くない事は勿論であります。歴史的には、天正十四年（1586）に義譽専教という人が来村して法源寺を開基した。その時この釈迦像も、どこからか持ち込まれてきた。この像の製作時期は、四日市市史編さん室の調査によれば、鎌倉時代のものである。当初の檀家は加富神社の神主一戸のみであったようですが、その後、途中で無住の時期も二度ほどあったようですが現在名前が判明している住職は十三人を数えます。その中には、宝永時代（1704



花の絶えない歴代住職の墓の一部（山田町東墓地にて）

我が家には三年前まで祖母がいました。目が不自由でしたが、言葉はしっかりしていたし、体はいたって健康でした。目が不自由な障害を持ちながら八十九歳まで生きられたのは、その家庭に愛と思いやりの心があつたからだだと思います。

現在、老人のために、国は医療、所得保障、雇用促進の拡充に努力されていますが、それは上をみればきりがありません。それよりも最も大切な事は、家庭に「愛」があつて長寿を喜ぶ人に囲まれて



婦人会、老人会、民生委員会とによる福祉問題についての交流会

（1710）の人で加富神社の神主清太夫が出家したものである道円や、その住職中に六郎兵衛という人から十一面観音像を寄進され享保十三年（1728）に入寂した西雲などがいます。排仏毀釈の嵐の吹き荒れる最中、明治六年（1873）に最後の住職泰仁の下で廃寺の憂き目にあいました。その後の始末はつぎのようでした。

所に小学校を建て、残金は村内で分配、一戸につき二円づつであつたそうです。なお、法源寺歴代住職の墓の一部が山田町東墓地の西参道の途中に現存しています。以上が山田町東寺の「お釈迦さん」の由来記です。

そして、廃寺・法源寺の釈迦像の保護維持が、年一回の「涅槃会」のおり、御寄進頂く一袋の仏供米によつてなされてきたのです。文化財の保護の重要性がさげられて久しい今日ですが遠い所の遺跡や国宝級の文化財

の保護に関心を持つことも大切ですが、私たちにとつて一番肝心なことは私たちの先祖が大切に維持してきた身近な行事や遺跡を保護して次の世代に伝えることではないでしょうか。

家庭の愛が何より

気軽に相談を

民生委員会

がんばっています。最後になりましたが、福祉関係の相談はどんなささいなことでも、ご遠慮なく民生委員にご相談下さい。毎月二回、地区市民センターで「福祉相談」を行なっております。相談によって少しでも福祉の向上に役立てれば願つてもない喜びです。

今日の幸せ、明日の繁栄も、みな先祖のお陰と思ひ毎日感謝と愛、そして思いやりの心で楽しい家庭・明るい社会をつくるのが福祉です。ある雑誌に次のような記事がのっていました。

我が家には三年前まで祖母がいました。目が不自由でしたが、言葉はしっかりしていたし、体はいたって健康でした。目が不自由な障害を持ちながら八十九歳まで生きられたのは、その家庭に愛と思いやりの心があつたからだだと思います。

現在、小山田地区には民生委員・児童委員は九名います。それぞれ地域福祉の増進を願つて、地区の皆様のご理解と協力を頂きつつ、明るい住みよい小山田となるよう、日々

天領だった六名町

年貢米 江戸まで舟で運ぶ

はじめに

私たちの住む、四日市市六名町は、古代より伊勢国三重郡に所属しておりました。

古くは、「中村」とも称して来ましたが、天正七年（一五七九年）の「神領記類」には「六名」とか「中村」といった地名が記録されています。

江戸時代になって「六名村」と呼称するようになったとされています。

この「六名村」を支配した大名の変遷を辿ってみますと、いろいろ疑問点があることがわかりつつあります。

六名町 田中弘治郎

上野先生の調査から

今回、市では、市制百周年に向けて、市史編さん事業すでに第一冊目として『四日市市史第二巻、史料備考古Ⅰ』が刊行され発売中が進められ、市史編集専門委員会の近世部会委員である皇学館大学助教 上野秀治先生が過日

当六名町へ史料調査に来られました。先生は、四日市市指定文化財になっている「六名文書」（昭和三十四年三月二十五日指定）を詳細に調査されました。

その成果の一部になりますが以下に記します。

財書 女五十六人
二、領主（藩主）の変遷
○慶長六年（一六〇一年）
桑名藩主 本多家

寛永年間（一六二四年～一六四四年）
桑名藩主 久松松平家
正徳年間（一七一一年～一七一六年）
長嶋藩主 増山家

天保元年（一八三〇年）三月、天領（幕府領）信楽代官 多羅尾家
村高は、百七十石（二二、五〇〇キログラム）から二百石（三〇、〇〇〇キログラム）前後で、多少の変動があった。

村高の変遷

延宝元年（一六七三年）六名村の石高
一九五石九斗七升八合
○宝永七年（一七二〇年）の村高 一七〇石四升
なお、年貢米は、元禄年間（一六八八年～一七〇四年）においては一〇〇石（一五、〇〇〇キログラム）であったからほぼ五公五民の年貢率として考えられる。

また、享保年間（一七一六年～一七三六年）には、六〇石（九、〇〇〇キログラム）となり、おおよそ三十三%が年貢となったものでしょう。



市指定文化財になっている六名町文書を調べる上野皇学館大学助教

う。

年貢米は、十二月末までに納め、四日市湊から、江戸まで舟便で回送していました。

四日市湊までは、牛馬の背に乗せ、天保年間以後は、「御用」とした「日の丸」をかかげて運びました。

この旗は、現在も大切に保存されています。

私が、幼少の時、古老の話によれば、稲刈り前に代官所から数名の役人が来て、坪刈りをします。

その役人達の身じたくは、陣羽織帯刀に白扇といういか



年貢米を運んだとき使用された旗

めしい姿であったといえます。役人は、庄屋、村方三役、農民に指示し、坪刈りをさせ、稲の作柄を見て廻るわけです。農民は、役人の前で、稲穂を竹べらにより抜穂し、竹箕にて選別し、作柄を検討しその結果により年貢率を決める。普通、この課税方法を検見取りといえます。

作柄の調査には、村方役人の庄屋宅で、行われ役人は、土足のまま座敷に上り、将机に腰をかけて見守る前で行なわれます。

このような話をよく古老から聞かされたものです。

農民の仕事ぶり

当時の農民は、早朝から夕方遅くまで野良仕事をしました。

天保元年（一八三〇年）頃は、水田には米で「中生」

が多く栽培され、裏作には麦、菜種が作付けされ、肥料には油粕、干鰯などが使われました。

畑作には、綿花、粟、稗、大根、大豆、小豆、そばなどが多く作付けされていました。女子は、手仕事に白木綿布を作って生計の助けとしたものです。

屋敷地内には、渋柿（蜂屋）を作ったりしました。

また、宗旨は、真宗高田派同行が十九戸、神戸禅宗同行が一戸ありました。

神社は、須賀神社（祭神素盞鳴尊外三柱）、牟津名神社（祭神天児屋根尊）、山神社（大山祇命）の三社がありました。

以上、上野先生の調査されたうちの一部を紹介いたしました。

心に残る遊びごと

子育てにしあわせ感

主婦

小山田地区に嫁いで、早や十八年になろうとしています。初めてこの地を主人となる人の案内で訪れた時、大きいスパーはなし、こんな不便な所で一生暮すのかしらと不安がいつぱいでした。

しかし、案ずるより生むが安し」と言うことわざがあるように子供を育てるには、非

るまで真っ黒になって遊び、のびのびとした子供時代を過ごしました。大人になっても、良き思い出となる遊びや、た

思います。

私は、このような所で子供を育てられたことを幸せに思っています。

くさんの経験をしたこととされています。この先子供達が成人し、一人前となりこの地を離れることがあっても、なつかしき故郷としていつまでも安心して帰れる土地であると思

生まれ変わった「ふるさと」

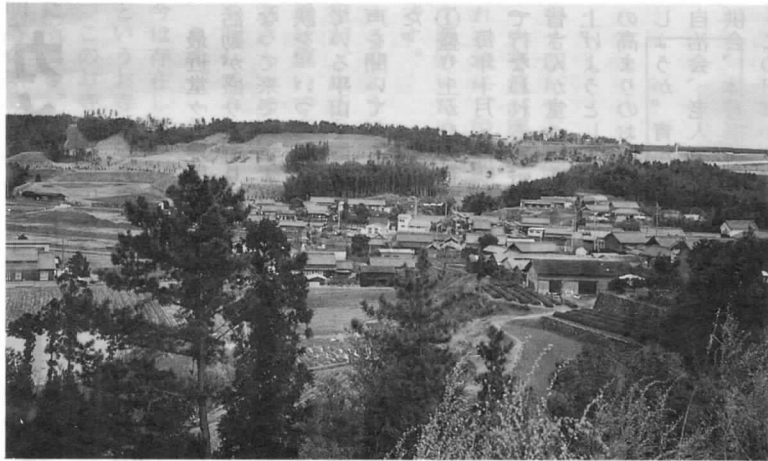
内山町 矢田 哲

「夢のような」のキャッチフレーズで始まった内山町のゴルフ場建設も、関係者の熱意と地元住民の協力、建設業者の卓越した技術によって見事なゴルフ場になりました。
赤茶けた松林がきれいな緑の絨緞に変わって、プレーする人達の楽しそうな姿が見られます。

雇用問題もうまくいって十数人の地元の人達が何らかの形で働いています。
地元自治会との話し合いで建設された温泉場は、現在月曜日の休み以外、赤と青ののれんの間から明るい声がきこえてきます。

内山温泉は「写真」内山町町民とゴルフ場へ土地を貸した地権者の「憩の場」として開設され、縁故者や近くの方々の入浴も許しているが、入浴する人には「温泉利用規定」及び「入浴心得」をよく守ってもらい、いつまでも楽しい憩の場として続けられることを祈っています。

村の中心部の水田も基盤整備が始まって、まもなく基盤の目のような良田に生まれ変わることでしよう。



雑草の川であ



に内山町の歴史ともいえる長老が、年末に永眠されました。古い話を記帳しておけばよかったと後悔しています。
内山町の山や川は、見た目にはきれいになったけれど、

つた天白川も浚渫（しよんせつ）されてきれいになりました。これからはみんなで川を汚さない様に気をつけて魚の住む川に早くなって欲しいと念願しています。

小山く八王子線もまもなく補装整備され、二十二本の防犯灯が中学生の通学を守ってくれることでしよう。

酪農をはじめ、小集落ながらいつもその時代を先取りしてきた長老達もほとんど鬼籍の人となり、あの世で内山町の変わりように驚いていることでしよう。昭和の終りと共

く、月日の早さと現世の無常を感じる今日この頃である。
毎日、温泉に入って、囲碁に興ずる人、ゴルフやパチンコの話題に花咲かす人、二月は「報恩講」のご馳走攻めで、平成元年の内山町は平和な日々です。
谷の多い土地なので、産廃業者の進出もあるが公害のないようによく相談し合って、後世に悔のないようにしたいと思っています。
関係官庁及び業者の方も、

環境事業団も、地元対策や公害にも気をつけて仕事されるので我々地元民も、美しく住みよい町になるよう努めたいと思います。
平成元年は、新生内山元年でもあり、植栽されたゴルフ場の木々もやがて繁り、芝生ももうすぐ張りつめる事でしょう。
温厚な内山町民の気質と合致して、素晴らしいゴルフ場と共に住みよい新生内山が育つ事を願っています。

いっいの場近く整備

農村総合モデル事業

山町 西自治会

このたび農村総合モデル事業における農村環境改善の為に農村公園（約二、五〇〇㎡）が整備されます。

この公園は、地域住民の健康増進、児童老人の「いっいの場」として有効的に利用されます。



工事が進む農村公園

カメラにポーズ!

楽しい町民運動会 町ヶ山

最近堂ヶ山地区のスポーツ活動が盛り上がり、積極的になつて来ていますね。その秘訣を、いつも頑張つて下さっている平山てる美さんに生の声を聞いてみることにしました。

小山田地区代表として我がチームは三位に入賞することが出来ました。初出場だったの他の地区の地下足袋軍団には圧倒されましたが選手より多い応援団とのチームワークで勝つたのだと思います。

②今後どのようにしたらもっと盛り上ると思いますか? 体が丈夫で精神的にも元気であるからこそよく働くことも出来るし食事もおいしくい

またホームラン大会では全員が一ぱつでしとめるパワーを見せてくれました。今年も平成元年より一層秘めたるパワーとチームワークを発揮し

ただけると思います。それには積極的な気持ちをもつ事が大切でありスポーツにレクリエーション活動にふるって参加することです。役員の方は

ちよつとの油断から三件も

昨年の小山田での火災発生

南消防署より



こわい天ぶら火災の実技指導 (地区防災訓練で)

大変ですが参加率を上げる仕掛け作りまた参加しなければ損をしている、おくれていると思うようなムード作りに取り組んで下さっているようです。年に数回は慰労の場をもち老若男女を問わず、スポーツが苦手な人も一緒になつて応援しているだけでもストレス解消になってさわやかな気分になりますよ。お互に無理

をしない程度に和気あいあいであろうと思つています。今年も綱引き大会は、小山田地区代表に決まったようだし役員さん達はソフトボール大会も狙っている様です。楽しみな年になりそうですね。十月が待ち遠しいですね。この意気込みで気持ちの若い堂ヶ山を盛り上げようとはりきっています。

冬特有の空気が乾燥して、火災が発生しやすい気象状況である反面、今年はこのほか暖かでしたが、立春を過ぎて冬本来の寒さが戻ってきました。

特に家の中のタバコの不始末や、天ぶら鍋のかけ忘れが目立っています。そこで、次の点に注意し、小山田地区から火災を出さないようにしましょう。

その火

その時

すぐ始末

- 寝タバコはしていないか
- ◇くわえタバコで歩かない
- ◇吸いながらは、くずかご等に捨てない
- ◎天ぶらを揚げる時には
- ◇油を加熱中や揚げ物中はその場を離れない。
- ◇揚げ物中にその場を離れる場合は、必ず火を消す。
- ◇油に火が付いても、あわてずに消火する。
- ◇油火災に「水」は禁物

ところで、昨年、小山田地区で発生した火災件数は、三件でしたが、それらはいずれも「ちよつとした」不注意から火災になっています。

- ◎喫煙時には
- 必ず灰皿があるか
- 灰皿に水は入っているか
- 吸いかけのタバコが、灰皿から落ちないか

フットの試合

竹内かおり

私たちはフットの練習不足だった。一回裏で逆転したけど最後には負けてしまった。

ファイブで善戦

子供会からの報告

清水 淳子

あの八月の暑い日、子供会では町別の対抗球技大会を開催しています。小山田地区の大会で優勝すると市の大会に代表として参加できるのでみんな一生懸命です。

とても暑い日だったので、みんなだらけきみで、また人まかせだった。もつとみんなが責任をもって協力すればよかったと思う。結果は残念だが

一回戦小山に勝ち、二回戦山田西に勝つて優勝。四年生が二人も入っているのになんぼつたと思う。来年は六年生が多いので、がんばってほしいと思う。

①盛り上がりの秘訣それは：毎年十月・神明神社前広場で行なわれる「町民運動会」皆さんが堂ヶ山を一つに盛り上げようとしている連帯意識の高まりのおかげではないでしょうか。青年団を中心に、自治会、老人会、婦人会、子供会、体育振興会の皆さん方この日ばかりは、仕事、家庭の事などすっかり忘れて、本当に楽しい一日です。ヨチヨチ歩きの幼児は、ハタとりに、五メートル先のハタをとりに行くのですが、横道にそれたり、お母さんのカメラにポーズをとったり、隣りのおじいちゃん、乳母車を押し、二人三脚でも追い抜かれ、後続の人たちをはらはらさせたものです。これがまたなんとユーモラスな雰囲気です。

四日市市民体育祭での綱引き大会、最近綱引きといえは堂ヶ山ときますね。昨年は

「去るものは日々に疎し」とのことわざがありますが、昭和から平成へと時代が変わり、長年いいたれた昭和も、日一日と遠のいていきます。

婦人会離れがいわれで久しい昨年十月、会長を受けて以来の念願であった地区全体の婦人会未加入の方へ、「入会」のお願いと共に、アンケートを頂く企画をしました。

確実に高年齢以外の二百四十八名の未加入の方への手紙。雲をつかむような不安な気持ちでしたが、委員・連絡委員の協力で大部分回収出来ました。

一度、会を離れた皆様でするのでお答えのないのがほとんどだと思いましたが、開けてはつとしました。無記入、

相手の立場になって

返ってこなかった分を合わせて約二割。あの方はお答えがあり、三割近い人からご意見を頂きました。

今、小山田婦人会は、「相手の立場になって物事を判断し行動する。お世話になった事を忘れないで、いつも感謝の気持ちで人様に接する」を、誰いともなく目標に全委員が一年一年協力し合って、皆様とのつながりを大切にしております。

一度は入会していた皆様の中に、会を離れて久しい今、理解をもつて婦人会をみつめていて下さることが心強く、ご協力下さいました方々に深くお礼申し上げます。



地域交流で

山田つ子に

山田町 西 米蔵

私が当地にご厄介になったのが、昭和五十六年五月十日である。

終戦後約三十五年程は、化学工業地帯の真つただ中だったので、生活のリズムをつかむのに時間がかかった。それでも、その年が終ろう

人情味豊かな

「ふるさと」に

人は生れてから人生を全うするまでいろいろな場所でする。あなたも人生を旅にたとえて芭蕉もいつにいます。私は、これまで人生の大半を小山田地区で生活して

す。正確に云えば、結婚当初の十年間を他所に過ごしましたが、また何となく、多分親がいたので戻ってきたのだと思います。それ以外にも、考えてみるとやはり生まれ故郷で居心地が良いように思えたのかも知れません。

この小山田地区内でも私の住んでいる所は、開発も進まず、私の小さい頃の道路幅員のままで変化もたいしてありません。あまり変化を望ま

とする頃には、土地の雰囲気にも慣れてきた。妻や、親、兄弟を亡くし、すでに老境に入った私に、ここが、お前の人生終焉の地にふさわしい天地だと教えられているような気になった。

それからは老後の健康ということもあって、周囲の野山を歩くように努めた。わらびやいたどり、あけびなどにも恵まれ、少年期を回想し、いつのまにか山田つ子になつて

かったということは、他所から来た人にはやりにくいということも多分にあると思いがすが、生れ育った者には欠点はありません。住みよい所となつていくようにです。

周囲の変化と合わせて小山田地区も少しづつ変貌していきつつあるようですが、何が住み良い環境かをみんながじっくり考え、何もかも画一的な世の中にならなくとも特色ある人情味豊かな、小山田地区に住めたらと思います。

安性寺の

観音さん

安性寺別堂に安置されている観音様は、平安時代(今から千年位前)に作られました。江戸時代には万松寺という寺に祀られていました。小学校の西の辺りに地名が残っています。この頃、この辺の人々は皆、真宗の信者になつて

いましたので、山田・西山・内山の皆さんが、檀家のないこの寺の観音様を、仲間でお守りしてきました。明治の初め頃、檀家のない



十一面観音像

俳句

小山田軽費老人ホーム
小春日や老女の腰に万歩計
何色の日を迎うや初暦
高橋
初霜の中に珍らし菊の花
命ありてこそと仰げり十三夜
道子
寒月の大きく山里豊なり
松岡
ボーナスに無縁となりて日向
ぼこ

短歌

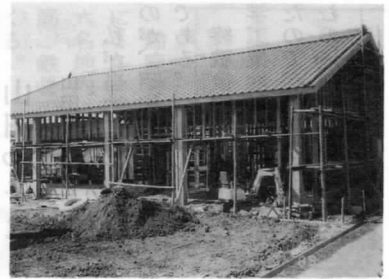
山田町 矢田敦子
平成の船出の無事を祈りつつ
かいどうの苗を夫と植えたり
小山田軽費老人ホーム
村瀬とも子
吾生き甲斐支えくるるは唯一
人卒寿の夫よ永く在ませよ
松岡婦美子
プリムラのピンク愛らし日々
に暖かき部屋満開つづく

川柳

山田町 矢田春美
大騒ぎさみしがりが寄つて
する
小山田軽費老人ホーム
松岡婦美子
桜寿司みなにこやかに箸はこぶ

詩

山田町 矢田春美
小さな履物が玄関いつばいに
散らばっている
其の隅に私は揃えて脱ぐ
孫が「おばあちゃん遠慮して
いる」と言う
「じゃあ私みたいに真中へダ
バツと脱いだら」
「でも履く時履きにくいから
こんなやりとりをする孫と私
の日々
何時も後の心配ばかりする私
六十六才
今が良ければと屈託の無い孫
九才との違い



完成間近い構造改善センター

町づくりの拠点施設

農業構造改善センター近く完成

和無田町
自治会

このたび、和無田町住民こそつての念願でありましたセンター（集会所）が三月末に完成します。

この施設は、農業振興を図る目的で営農計画や水田転作農地の流動化対策などを積極的に進めたり、また、住民が「明るく幸せ」に暮らせるために福祉や生活環境の改善など

を話し合う町づくり拠点施設として造られました。今後は、地域社会づくりに大いに活用したいと存じます。

この人尋ねと

④ 手づくりの鬼かわら 県下で唯一人の職人

西山町 佐竹 一 男さん

「鬼かわら」つまり屋根の棟の端におく大きなかわらで文字通り鬼の顔をしたもの、雲形の模様などいろいろ彫刻を施したもの、それに家紋を入れ込んだものなど日本建築の家屋ならこの屋根にも

見られ、その大きさも大小さまざまなものがあります。一種の魔除けの意味をもち、その家を守る風格は美しいものです。



鬼がわらの製作に励む佐竹さん

のは西山町に住む佐竹一男さん（四七）。しかもこの道の職人さんは非常に少なく県下で唯一人。それだけに販路は県下一円に及び、一般住宅の鬼かわらもとより、県内で新しく建立や修復する社寺の八割ぐらゐを手掛け、これまでに作った数は社寺関係のものだけでも何百とも知れない。

この小山田地区内でも堂ヶ山町の神明社、和無田町の鐘楼、小山町の神社、山田町安性寺の鐘楼などのものが作られていて、幾つかに分割され組み合わされて一つのものに形成される。特殊なものになると自分で設計し、加工、出来上がるまでに一カ月から数カ月もかかってしまうこともあるそうだ。今までに作った最大のもの、一つの鬼かわらが何と五百キログラムの重さ、十個に分割されそと大きさは畳二畳分に匹敵し、一

れている。佐竹さんはこの道に入つてすでに三十年余。以前陶芸関係の仕事に従事その基礎を学び、以後自分で今日の道を築いたといわれる。こうした鬼かわら作りも最近では機械化が進み、一般住宅用のものはプレス加工で量産ができるが、神社、寺関係の大型のものになるとすべて手づくり、幾つかに分割され組み合わされて一つのものに形成される。特殊なものになると自分で設計し、加工、出来上がるまでに一カ月から数カ月もかかってしまうこともあるそうだ。今までに作った最大のもの、一つの鬼かわらが何と五百キログラムの重さ、十個に分割されそと大きさは畳二畳分に匹敵し、一



手づくりの鬼がわら

カ年の月日を費やした超マンモス級。その壮厳さが何われる大作もの。こうした労作の陰には乾燥具合、窯だき、ひずみなど長年の経験と綿密な計算によつて作られるのは云うまでもなく、職人氣質としてさらにより良い物を、立派な物を作りあげたいという意欲が佐竹さんの表情からも感じとれます。

地区の人口5,821人

(64年1月1日現在)

町 別	世帯数	人 口		計
		男	女	
山 田 町 (含老人ホーム)	914	935	1,191	2,126
西 山 町	160	305	331	636
小 山 町	144	300	302	602
内 山 町	54	106	121	227
六 名 町	48	99	103	202
堂ヶ山町	105	243	249	492
美 里 町	40	98	85	183
鹿 間 町	245	453	483	936
和 無 田 町	96	203	214	417
計	1,806	2,742	3,079	5,821

「素直」って何だろう

私は、この「素直」と言う言葉が大好きだ。

でも、これを書く資格もあまりないと思いつつも、筆を走らせる結果となった。

「素直」と言う字を辞書で引くと、自分の今まで思っていた意味と少し違うので驚き悲しむ。私は中年の一人でもありますが、わが子へはやはり素直に「ごめん」「ありがとう」を正しく言える子供に育てたいものである。

また、何かを壊した時、大声で「ごめんなさい」と詫言て走り去る子供より、その場

で立ちすくみ、涙ぐむ子供にどれだけ大きな共感を覚えることだろう。

で立ちすくみ、涙ぐむ子供にどれだけ大きな共感を覚えることだろう。

編集後記

◎ 地区広報「おやまだ」(第九号)をお届けします。

◎ 今号は、各種団体の活動紹介、小山田地区の過去や未来をみつめ、この地区に生まれ育ち、住んでのご意見、ご感想、それに現在地区内で行われている工業団地の建設状況を主に取りあげてみました。

◎ ご寄稿いただきました方々に厚くお礼申し上げます。

◎ なお、紙面の都合上、原稿の一部を割愛させていただきましたが、あしからずご了承ください。

◎ 地区広報「おやまだ」(第九号)をお届けします。